

**(1) こころに残るまち景観 応募内容の分析**

① 応募状況

- 応募件数：41 件
- 応募者情報

内容	数量（うち新規応募者）
応募者数	18 名（2 名）
平均年齢	57.1 歳（33.0 歳）
性別	男性：12 名（0 名） 女性：6 名（2 名）

② 景観区の位置

景観区	件数	割合(%)
臨海景観区	2	5
旧市街・歴史景観区	11	27
沿道型市街地景観区	1	2
新市街地住宅景観区	18	44
里の景観区	5	12
自然緑地景観区	4	10

③ まち景観の場所

主な場所名	場所名及び件数
まちなみ	道路、街並みなど：15 件
にぎわい（行事など）	祭り、イベントなど：11 件
建造物	岸和田城、寺社仏閣など：7 件
水辺	久米田池：4 件
農地等	農地：4 件

④ 応募要件の分類

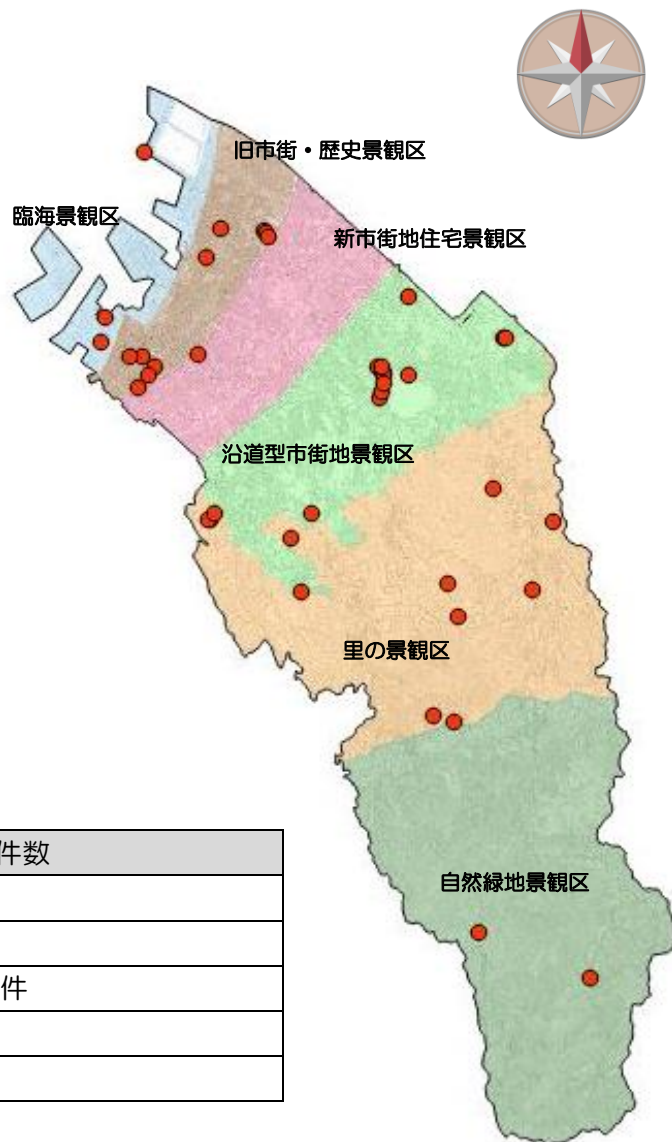
応募要件	件数
まちや地域を特徴づける、または核となる景観要素として魅力が感じられるもの	3 件
暮らしやなりわい、営み、産業など身近にあり魅力的であると感じられるもの	13 件
歴史の風情や洗練された新しさにより魅力が感じられるもの	2 件
賑わいや親しみ、四季折々の趣きを感じられるもの	20 件
要件に該当しない	3 件

⑤ 撮影距離

- 遠景（概ね 2km 以上）：3 件、中景（概ね 300m～2km）：9 件、近景（概ね 300m 未満）：29 件

⑥ 季節、時間帯及び天候等の自然的要素に関するもの

- 季節に関するもの：30 件（春：6 件、夏：9 件、秋：12 件、冬：3 件）、関係しないもの：11 件
- 天候に関するもの：11 件、関係しないもの：30 件



## (2) ころに残る景観資源発掘委員会の概要

### ①ころに残る景観資源発掘委員会の開催状況及び主な議事内容

開催日		主な議事内容
第1回	H30/11/28	<p>→事務局よりまちかど審査上位 30 位以内の写真と動画を説明。</p> <p>(応募作品の選考に関すること)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 推薦資源は、写真の綺麗さではなく現地を見て周囲の景観との調和を考慮して選定すべき</li> <li>・ 過去の指定作品との重複をどう考えるか</li> <li>・ どのテーマにおいても応募のあるシンボル（岸和田城、久米田池など）をどのような視点で評価するか</li> <li>・ 人々の営みが見えてくる「まち景観」という視点も必要</li> <li>・ まちかど審査と発掘委員会での評価が異なることもありえるが、まちかど審査の上位3位までは考慮する必要がある</li> </ul> <p>→19 作品を一次選考のうえ、現地調査等について意見交換。</p>
第2回	H30/12/5 (現地調査)	<p>→現地調査（一次選考+まちかど審査上位3位、重複あり）の実施</p> <p>(現地調査時の感想など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ なにをまち景観ととらえるのが難しい</li> <li>・ 境内地は、まち景観としてどう評価するのか</li> <li>・ 過去に指定されている資源についてどう評価するのか</li> <li>・ 視点場という評価軸をどう見るのか</li> </ul> <p>→現地調査を行い、最終選考に際しては「まちなみ、または地域のシンボルとして周りに影響を与えているか」「催事が行われる場として日常にも余韻が残っているか」及び「人の営みや関わりがあるか」の3つの視点により審査することを確認</p>
第3回	H30/12/12	<p>→事務局より、現地調査が出来なかった「春木西福寺」などの動画を説明。</p> <p>(推薦作品の審査に関すること)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通称と正式名称についてどちらを題名に採用するのか。</li> <li>・ エピソードや現地は良いが応募された写真の質が悪い場合について検討が必要。</li> </ul> <p>→推薦資源を9件とし、講評を作成。</p>

### ②ころに残る景観資源発掘委員会 現地調査と協議の様子



日没前（稲葉町）



久米田池の夏祭り



第3回発掘委員会の様子